



吉松家の遠縁 故山口氏のちりめん人形 故郷の住宅を彩る

串間市出身の山口 蓉さんのちりめん人形が旧吉松家住宅に寄贈、展示されています。山口さんは、河野正信さん(吉松忠敬の甥)の長女として1929(昭和4)年に福島町(現串間市)に生まれました。1992(平成4)年にちりめん人形を作り始めてから亡くなるまでの約30年間、花や動物といった自然のものから五月人形やひな人形などの伝統文化をモチーフに、さまざまなちりめん人形を作り続けました。

今回、遺族の方が吉松家の遠縁にあたり幼いころ訪れていたという同住宅に、約20作品を寄贈いただきました。山口さんの作った彩色豊かなかわいらしいちりめん人形が住宅を彩っています。季節に合わせて展示をしておりますので、ぜひ住宅へお越しください。



ケガを負った岬馬 野生に復帰

9月23日、リハビリを終えた4歳の雌の岬馬が獣医師や都井御崎牧組員が見守る中、柵から放たれました。同馬は今年の4月に後ろ足の骨を折る大ケガを負いましたが、皆様のご支援により奇跡的に回復し、今回リハビリを終えて、無事に野生へ戻る事ができました。

生涯学習課文化係 ☎55-1163

市長コラム

季節の変わり目

先日、わが家に生る甘柿を友人に届けました。私たちが子どものころはよく、木に生っている柿を取って食べていて、友人は昔を懐かしむようにかぶりついていました。現代のように甘いお菓子などはなく、秋の旬の果実を毎年楽しみに食べていたものです。

私は梅の実も歯で割って食べられるほどだったのですが、今は歯もあごも弱くなり、柿を食べるときは皮をむいて小さく分けて食べています。体の衰えを身を持って実感しています。

今の子どもたちのあごの力、かむ力は昔の子どもたちと比べて弱くなっているそうです。原因として、口に力を入れてかむ必要のある食べ物が少なくなってきたため、かむ回数が減り、しゃく力が衰えてしまったと考えられています。子どもにとってもかむ力は、頭や体の成長に大きく影響することがさまざまな研究や調査で分かっています。

プロ野球選手でガムをかみながらプレーする選手がいらっしゃいますが、かむことで筋肉の運動を調節する脳幹に刺激が伝わり、筋肉の動きが強まり、また、認知機能をつかさどる前頭前野の血流が良くなって集中力や判断力の向上につながるなどして、結果パフォーマンスに好影響を及ぼすそうです。



10/21 本城地区であった
ひまわり・コスモスお花見歩こう会

このように、かむ力を鍛えることにより頭と体が強くなります。ぜひ食事の際にしゃく回数を多くするように心がけるなど意識してみたいかががでしょうか。

今年の夏は猛暑日が続きましたが、近頃は涼しくなり運動しやすい季節となりました。最近では体力維持のため、時々朝10分ほどゴルフの練習を行っています。継続することは難しいですが、できるだけ自分なりに体力維持に努めていきたいと思っています。

今年も後2カ月で正月が来ます。歳のせいかな時間過ぎるのが早く、また、季節の移り変わりが寂しさを感じさせます。元気に年越しができるよう体力づくりを頑張り、季節の変わり目などで体調を崩さないようにしていきたいと思っています。これから寒い日が続きますが、皆さまのごご自愛ください。

地域集落支援員の紹介



大東地区 集落支援員
たかおか なるみ 高岡 成美

自己紹介
大東地区集落支援員の髙岡です。串間市に移住して1年半ほどが経ちました。

私が集落支援員になったきっかけは、温かく迎え入れてくれた皆さんに何かできないかと考えているときに集落支援員という仕事を知り、集落を回り皆さんとお話をさせていただくことにより、大東地区や串間市について学び、私にできることが見つかるのではないかと思ったからです。

●これまでに担当地区で取り組んできたことなど
大東地区を詳しく理解するため、また大東地区の方々に私を知っていただくため、サロンやいきいき元氣教室に訪問させていただいたり、集落を訪問し、出会った方にお話を聞かせていただいたりしています。

また、先進地域に視察研修

へ行き、大東地区自治会長の皆さんと一緒に地域連携組織についての勉強会に参加しました。

●これから取り組みたいこと、目指す将来像
お話を伺う中で、コロナも落ち着いてきたので花見やお祭りなど交流の場を復活してほしいという声や、大東地区は赤池や昔からあるクスノキなど文化的景観がたくさんあるので、そこにもスポットをあててほしいという声がありました。

また生活面ではゴミの分別が難しい、買い物や病院への交通手段が不便、災害時の避難が不安などの声がありました。

これらはほんの一部になりますが、このような声を地域の活性化のために生かすためには、大東地区の皆さんの力が一番必要だと思っています。

●結びに一言
大東地区がより良くなるために、これからもいろいろなお話を伺い、大東の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。